

もみじ

-広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報-



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail : hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL : <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 登山教室（2年 11/6～7 剣山～三嶺、1年 11/13～14 恐羅漢～高岳）報告
2. クライミングスクール（11/7 三倉岳）報告
3. ありんこチーム山行（11/6～7 しまなみ海道チャリンコ登山、11/13～14 大山、11/23 竹原里山ハイキング）報告
4. 県民ハイキング（12/5 宮島）報告
5. 中国高校登山大会選手感想文（続き）
6. 岳連短信（寄贈御礼 12～1月行事予定）

1. 登山教室報告

（指導部長 森本 覚）

第4回2年生 11/6(土)～7(日)

登山形態：テント泊山行

山域：剣山～三嶺

人数：6名（スタッフ含）

今月も正規カリキュラムを1ヶ月ずらして四国の剣山～三嶺の縦走を実施しました。2日間とも天候に恵まれ余裕をもって行動する事ができました。（森本）
(感想文)

『11月 剣山・三嶺山行を終えて』

（登山教室2年生 吉部 恵理）

再びの緊急事態宣言解除後 10月のくじゅう遠征に続いて 11月は四国（剣山・三嶺）小遠征が実施された。今回も馴染みのある好きなエリアで楽しみだったが、季節が冬に近づいていること、縦走路でエスケープルートがほぼないこと、水場が遠いこと、2日目は早朝暗いうちから出発し7時までには三嶺山頂に着かないとバスに間に合わないこと等、前回より難易度が上がる。

今回も夜9時頃広島を出発して現地到着後に数時間の仮眠となる。

当初、週末日曜日から天気は下り坂という予報が出ていたので、更にハドルが上がるかもしれない。しかし幸いなことに天候はよい方へ変わって、結果的に秋色の景観を心行くまで楽しみながら歩き、三嶺では感動的なご来光まで見られる順調な山行となった。

今回も急坂が続くと私の速度は落ちるも計画書通り（「山と高原地図の歩行時間×1.2」内）に歩けていることは自信にもなった。山行を振り返ってみる。

<移動>

剣山への車道では鹿に2回遭遇しヒヤリ。ハクビシン、狸も現れた。

<1日目>

見ノ越第一駐車場へ到着すると7割くらい埋まっていた。2時間の仮眠後5時半に起床し6時半前から歩行開始。

剣山から向かう次郎笈の笹に覆われた山容が柔らかくて美しかった。これぞ見たかった風景！次郎笈までひと登りして写真撮影を済ませると次へ急ぐ。丸石の手前でスタッフ陣から過去受講生の方と初めて出会った登山教室内の通称K尾根・K岩の由来を聞き、談笑しながら笹原の道を歩く。

丸石避難小屋まで来て後半の高ノ瀬、中東山分岐と似た景色の小アップダウンを繰り返す。立ち枯れの木が多く、あちこち鹿害を防ぐためのガードも巻かれている。

計画より1時間早く白髪避難小屋へ到着した。テントの先客は1組、その後1組だった。聞いていたと

おりテントが快適に張れるスペースは少ない。早く着けたので全員でテント設営し、1名テント番に残って全員で水汲み場へ行くことに。

標識では「南へだいたい50m」とあるが、水が涸れていたのかガレ沢筋を100mは下ったような気がする。水の確保がこんなにも大変だとは。明るいうちに着けてよかったです。

<2日目>

夕食後7時半にはシュラフに潜り込んで2時過ぎ(2時半の予定が)に起きるのも初めてだが問題なかった。暗闇をヘッドランプを点けて登山道を外さないよう三嶺まで向かって進む。分岐から急坂にかかると萱の中の所々に脇道(獣道?)があり正道を外しそうになる。ガレ場や滑りやすい坂が続く箇所は危ないのでスタッフ陣が先導された。私のヘッドランプの性能不足を指摘される。200ルーメン、90mだった(ブーストを押すと335ルーメンまで上げられたことを帰宅後に知る)。足下や周囲が明瞭でないことは歩行に影響が出た。明るいライトで補強して頂いて歩けたが、蔭になるとはっきり見えない中に足を出すことは怖かった。

6時前、うっすらと明るくなって稜線が見えて来た。三嶺山頂に近づくと強風に煽られた。曇の動きも激しい。山頂に着くと先客2名がいた。まもなくすると雲の下から昇る朝日を待ち構えた。モルゲンロートか、周囲が赤く染まる山々に神々しさを感じた。夜道の移動は辛かったが、想像してなかつたこの景色で帳消しとなった。ご来光ショーをゆっくり楽しんでいるうちに計画時間と一緒にになった。

下山方向に進むと池が現れとその先の避難小屋が見え清々しい朝だった。

三嶺の下りは明るい森の中を道を外さないように歩いたが、長かった。

最後は鉄塔を回り込んで道が整備されており「新名頃登山口」に下りた。里に下りると紅葉も見頃を迎えていた。

帰宅してすぐヘッドランプについて調べていると、翌日に森本CLから詳しい説明が届いた。表示が同じ

ルーメン(光束)でも照射距離(レンズ)が違うと明るさが異なること、LEDや電池も寒さで影響があるかもしれないこと等、興味深かった。ニッケル電池を使用出来たりや充電式タイプもよさそうで、今後の厳しい夜間歩行を考えると高性能なヘッドランプへの更新を検討している。次回の1年生テント泊でヘッドランプを比較することになったのでしっかり見極めたい。

来月からはいよいよ冬山訓練に入る。大山の雪が踏めるのが楽しみである。頑張って行きたい。

スタッフ及び受講生の皆さん、今月もお世話になりました。来月もよろしくお願ひいたします。





(写真提供 森本)

第6回1年生 11/13(土)～14(日)

登山形態：テント泊山行

山域：恐羅漢～高岳

人数：12名（スタッフ含）

今回は積雪の恐羅漢から始まり、その後も濡れた登山道をテントを担いで歩くのは大変だった様ですが、全員無事歩く事ができました。（森本）

（感想文）

『2021年度11月1年生教室を終えて』

（登山教室1年生 カモト）

今回のルートは、恐羅漢を起点に県境に沿って高岳まで縦走し聖湖キャンプ場でテント泊。二日目は樽床ダム駐車場から十文字峠を経て奥三段峡に下り、最後は砥石郷山に登り起点の恐羅漢へ戻る計画でした。

初日は長丁場なのでスタートは日の出前。前夜の降雪でうっすら白いゲレンデを直登していると内黒峠から朝日が差しこみ、山が赤く染まる美しい光景が見られました。

さらに標高を上げていくと周りの樹木も白くなり、11月上旬なのに一足早い冬を感じる事ができました。新雪を踏むのは気持ち良かったです。

恐羅漢山頂では集合写真だけ撮影して高岳への縦走スタート。私は初めて歩くコースでしたが、JAC 広島支部様が登山道の笹を刈ってくださったおかげで藪漕ぎ個所は少しだけ、ブナの林の向こうに日本海が見える気持ち良い稜線歩きを楽しめました。

縦走中、私達以外の登山者には会うこともありませ

んでした。しかし樹木に残る新しい爪跡や熊棚など人間以外の気配を感じます。先頭のメンバーには鈴が渡され、1年生のOさんから定期的に「ヤッホー」のご発生がありました。

このルートで難易度が高かったのは下りです。粘土質の登山道に落ち葉が乗って非常に滑りやすく、それが体力の消耗と、進行が計画よりも遅れる原因になったと思います。

それでも高岳山頂が見えてくると少し元気が出ます。しかし見てからが長く、なかなか着かないので登山アルアル。アップダウンに苦しみながら少しづつ高岳が近づき、最後の斜面を登り切ると眺望の良い高岳山頂に到着。時間は日の入り1時間前でした。

山頂からの景色は圧巻で、西日に染まった深入山、聖湖、臥龍山は美しかったです。歩いてきた方向を振り返ると遙か向こうにスタートした恐羅漢が見え、歩いてきた満足感はありましたが、明日の帰路を考えると複雑な気持ちにも。

もう少し山頂に居たかったですが、日没までに湖畔の車道へ下りたいのと、その後もキャンプ場までのロードが待っているのでサッサと写真を撮り下山開始です。

高岳登山口まで下山すると、G副会長とスタッフKさんが2台の車で待機されており、キャンプ場まで乗せていただけるとのこと。中々ペースの上がらない私達のためにいろいろ調整していただきましてありがとうございました。

聖湖キャンプ場に着くと、そこは多くのキャンパーで賑わっていました。世の中、空前のキャンプブームらしいですが、大きなテントや椅子テーブルを並べたサイトから美味しい匂いが立ち込めていました。

しかし我々も負けていません。夕食一人200g制限の中でよく工夫された暖かい献立に力をもらえ、各自少しづつ持ち寄った酒とつまみを分け合い楽しい夕食ができました。デザートで「外郎のバター炒め」がふるまわれ、最後の締めに産地直送キノコで作られた味噌汁は身体に沁みる美味しさで思わずお代わり。焚火にも癒されましたし、20時に各自のテントに潜り込めたのはサポートカーのおかげです。本当にありがとうございました。

うございました。

明けて二日目は今までに食べた事の無い料理から始まりました。クスクスという粉と様々な食材を加えたその料理はパスタの粉で作った雑炊というイメージでした。美味しくて体も温まり元気をもらいました。

二日目のルートは、キャンプ場から登山口まで湖畔を歩く計画でしたが、本日もスタッフKさんのサポートカーで登山口へ移動。お忙しいのに4回のピストン搬送ありがとうございました。

樽床ダム駐車場でラジオ体操してから湖畔を少し歩き聖山登山口から入山。林道を1時間半歩き左手の山道に入ると笹藪が待ちかまえていました。

登山道は肩の高さほどの笹で覆われ、テープも最低限しか貼られていなくて進む方向がわからず難儀しました。場所によっては笹の密度がやや薄く登山道とわかる箇所もありましたが、基本は地図で地形を読み、コンパスで方向を見極め、尾根を外さないよう慎重に進みました。やがて田代川への下り尾根に入ると、テープが多くなりルートは分かり易くなりましたが、登山道は大きな石や倒木で下りにくい急斜面でした。

2時間の苦しい藪漕ぎと下りが終わり田代川を渡るとG副会長がサポートカーで待機していました。ありがとうございます。ここで大休憩を取りしばしまったりできました。

しかしここからが二日目の核心部、G副会長も同行され田代橋を渡り本日のラスボス砥石郷山へ取りつけます。昨日の夕食の時「砥石郷の登りは30分に1回の休憩が必要」と聞かされ予備知識を持って臨みましたが、想像以上の苦しい登りです。滑りやすい斜面と相まって最初から最後まで気が抜けません。コースタイム2時間のこの急登、私の中で「もう登りたくない登山道」認定です。

砥石郷からスキー場への下りは、日当たりが良いから滑りにくく楽に下山でき、各自談笑しながら振り出しのスキー場へ戻れた時は「終わった！」という気持ちでホッとしました。活動データは沿面距離24.6km、累積標高2148mと前回の比婆山よりも少ないですが、滑りやすい下りの連続、藪漕ぎ、急登と難易度は高く完歩できたことに達成感がありました。

1年生のテント泊教室も今回で3回目となり、少しですが要領がわかつてきました。半年前はテント泊登山が不安でしたが、今は恐羅漢から聖湖へ行って帰つて来る事が、何となくですが出来ていることが驚きです。来月から雪山カリキュラムで2月までテント泊縦走はお休みですが引き続きトレーニングは継続して行きます。スタッフの皆さん、受講生の皆さん引き続きよろしくお願ひいたします。



(写真提供 森本)

2. クライミングスクール報告

(指導部長 森本 覚)

11/7(日)

場所:三倉岳 Bコース8合目周辺

人数:14名 (スタッフ含)

講習内容

ひとけたエリア5本、雨のあと、池本クラック、門前払い、計8本を登りました。時間の関係で全てを登れたのは1ペアだけでしたが、インターバルの短縮など時間配分は次回の課題としました。(指導部 塩田 徹)

【感想文】

(受講生 沖元 智重子)

週間天気予報では『雨』と言う予報でロープワークになるだろうと思っていたのですが、ふたを開けてみれば暑すぎるほどの天気…。色とりどりの紅葉の中に、三倉を見上げながら八合目まで登りました。

前回休んだので2ヶ月ぶりのクライミング、午前中はエイトノットやビレーの仕方等の再確認から始まりました。

2本目で目的の場所に手を伸ばしようやくタッチできたと思ったら、3本目ではみんなが簡単そうに登っているのに、いざ自分が登ろうとすると同じ位置に足を置いているのに滑ってしまい、滑るから体に力が入る、力が入るから体力を消耗してしまう…と悪循環で気力も失われ…。

昼からは『雨のあと』『池本クラック』の2本を登りましたがパッとしないまま時間切れになり終了しました。

下山時ホッとしたのか!? 昼食はしっかりとったのにもかかわらず急にお腹がすいてきました。

次回でいよいよ最後となりますが、3週間後…と割と時間が短いので、今回の反省を生かして少しでも上達して終わりたいと思いますので、スタッフの皆さん次回もよろしくお願いします。

『クライミング教室に参加して』

(受講生 中岡 節二)

クライミング未経験で教室に入り5回参加し、今やっとクライミングの片鱗を体験している状況だと考

えております。

一番苦労しているのは、足の置き場の選定、置き方です。

今は、インサイドエッジの感覚を習得するのが先決だと考えていますが、岩に対し足の水平、垂直角度がどの程度であれば安定するのか、親指の腹、母指球あたりの感覚がどのようになれば安定して岩の上に立てるかが理解できていません。そのためにまずは体と岩との間隔を確保することが重要だと感じてはいるが、ついつい手のひじを曲げ、岩に体を寄せてしまうのが現状です。

このあたりを克服するのは、練習回数かもしれません……

また、スマーリングについては、ほとんど感覚が掴めません。

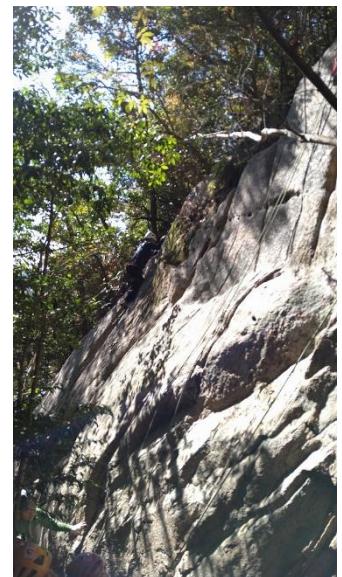
母指球からつま先を岩にできるだけ垂直に押し付けることを意識しているが、頭で考えているようにはできていないのが現状だと思っています。

ポイントのようなものがあれば、教えていただきたい。

インストラクターの登り方をビデオ撮影し、見ていますが体重移動等を見極めるのは難しいです。とはいえ、繰り返し見ております。

ロープワークは、いただいた資料やロープで家でも練習可能ですので問題はないと考えます。

(写真提供 塩田)





一つの出会いから、こんなに素敵な時間を過ごせるようになるのはとても不思議ですが小さなアーチを大切にしてこれからも新しい事にチャレンジして人生を豊かに生きたいと思いました。



3. ありんこチーム山行報告

(顧問・個人会員 岡谷 良信)

①11/6～7 しまなみ海道チャリンコ登山

(個人会員&ありんこチーム 薙野 美穂)

しまなみ海道を自転車で渡って見たい!初めて車で通って思い続けていました。今回のありんこチームの山行がしまなみ海道チャリンコキャンプとお知らせを受ワクワクが止まらなくなっていました。

ありんこチームとの出会いは、広島県民の森（比婆山）登山イベントに参加して、岡谷さんにガイドして頂いてからです、個人の山登りでは体験できないような楽しいそうなチームが有ると知って、即入会しました。

8:30 尾道駅に集合、私はチョット、ズルして（電動チャリ、ゲット）。自転車で島の景色、風のにおいを全身で走るのは心が満たされていました。

大三島多々良道の駅でのシラス丼を美味しく頂き、キャンプ場に、張られた色とりどりのテントや夕焼けに染まる海、見る物すべてが美しく感動するばかりでした。

翌朝 7:00 大三島文化財、大山祇神社へ向けて5名でスタート、神社から鷲ヶ頭山へ6名で登山、往復4時間弱、再びチャリコで尾道駅まで漕ぎ続けて 15:40 到着。



②11/13～14 大山山頂小屋泊山行

(個人会員&ありんこチーム 本谷 智津子)

11月13日（土）道の駅たかのに集合 3名が同乗し大山にむかう。

山頂小屋が新しくなって初めての大山です。単独では、度胸がなくこの企画を頂き早々に参加を決めました。紅葉の時期とあって駐車場もいっぱいです。

早めの昼食、山かけ蕎麦美味しく済ませて、夏山登山道で出発。登山道も整備されとても歩き易くなっていました。気候もよく前半は調子よく歩けましたが、7合目付近になると疲れが見え始め、足がつり、メンバーの足を引っ張ってしまいました。

8合目を過ぎる頃には、雪山状態です。木道では、滑らぬよう緊張しました。風もあるので小屋に到着しひと安心。

山頂小屋は、2階が広く更衣室まで完備され、快適な山頂小屋に変身。トイレも小屋の中にあり感謝です。

後発隊が2名到着し山の話に花が咲きます。きれいな星空を期待していたのですが次回に持ち越しです。この日は、我々を含め12名が泊まっていました。

14日 雪も凍って足元悪し。遅めのスタート。人気な山なので登って来られる方も多い。6合小家付近になると雪も少なくなり、ほっとました。

下山は、行者ルート。ここからは、秋山の紅葉を楽しみながら歩けました。今回の山行を参考に夏山の時期に歩こうと思います。

下山後、お風呂で汗を流し、昼食後、帰路につきました。

このような山行を企画し、同行して下さった皆さんありがとうございました。

私も出来ることを増やしたいと思います。



③11/23 竹原里山ハイキング

(岡谷 良信)

山岳・SC連盟から、たけはら里山ハイキングの情報を頂き、たまたま竹原山岳会に40年余りの山友がいらっしゃる事もあって誘われ、竹原方面の山登りはなかなかチャンスの無い事もあり、気軽に参加することにした。

ありんこチームの仲間にも声がけし、6名で参加することとなる。

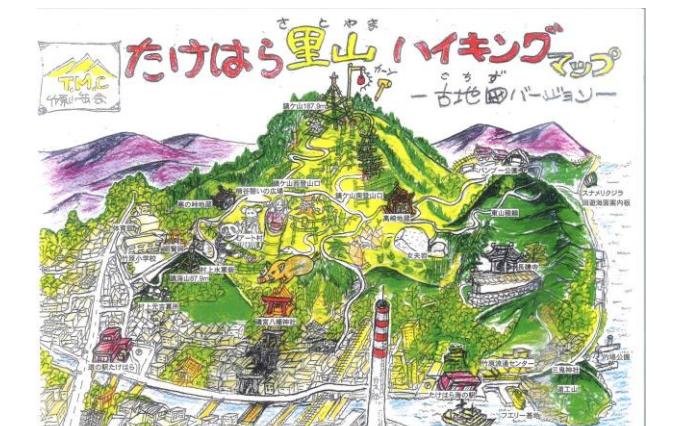
朝6:00夜明けと共に我が家から3名便乗で、朝日を受けながら8:00前に集合場所(竹原小学校)到着、スタッフの方に案内を受けて受付、例に漏れず、我々

同様に団塊世代の頑張りが目に付く。

開会の挨拶、どこの会長も話は長いが、コロナ過で、久しぶりの里山ハイキング開催の喜びを感じられる挨拶をうけ、3コース6班での行動となる。74名の参加者中、岳連の仲間達が12名と盛況な里山ハイキング企画になっている。

村上水軍のゆかりの里とか、竹原小学校スタート～鎮海山（90M）～鎮ヶ山（189M）～高崎地蔵までは、おおむね竹林で、なかなか雰囲気がいい。途中の空間広場が自然からかけ離れた雰囲気は気にはなるが、地元の方々の憩いの場なら仕方ないのか。竹林の整備ができると京都嵯峨野にも負けないものになるのだろうと感じる光景だ。竹原の街並みと竹林のセットの観光にならないものかと思いつつ、東山稜線～ビューポイントでの、瀬戸内の素敵な景色を眺める事が出来た。

バンブー公園で昼食を済ませて最短コースの帰路、1時間余りで竹原小学校に到着、解散。竹原出身の山友の案内で街並み散策。何度か来ているものの、随分といい加減な観光していると思いながら、いい汗と里を考える一日の提供を頂いた。竹原山岳会の皆様ありがとうございました。又チャンスがあれば参加させて頂きたいと思います。



4. 県民ハイキング報告

(事務局 西部 伸也)

コロナのために昨年から今年にかけて中止となっていた当連盟主催の「県民ハイキング」（6月～3月に毎月1回開催）がようやくにして再開された。

参加者数は以前に比べるとやや少なかったが、それでも久し振りに連盟行事が開催され、皆さん顔は大変にこやかであった。

宮島と言えば弥山登山が最もポピュラーであるが、聖崎のような普段はめったに訪れる事のない場所も組み込まれていたのが良かったし、また、毛利元就が2千の軍勢で2万の軍勢の陶晴賢を打ち破った「厳島合戦」についての豊田理事長による歴史解説も興味深かった。

以下に参加者の感想文を掲載します。

(一般参加者 渡邊 つむぐ 9歳)

今回の宮島のハイキングを開催してくれてありがとうございます。

今日のハイキングは疲れたけど、とても楽しかったです。

道中転んだり、紅葉谷公園の水路で滑って落ちそくなったり、ハプニングもありましたが、とても楽しい思い出になりました。

特に楽しかったのは、海の近くを歩いたことです。家で写真を見たら、良い写真がいっぱいとれていま

した。特に、紅葉谷公園の橋の上で撮った写真が良かったです。

もう一度言いますが、本当にありがとうございました！（^-^）



桟橋前広場で準備体操



要害山での歴史解説



満潮と重なり、聖崎へは海岸通しでは困難



紅葉谷で記念写真

5. 中国高校登山大会選手感想文（続）

10/29～30 にもみのき森林公园・十方山で開催された第 61 回中国高校登山大会の結果等については前号に掲載しましたが、女子優勝校の選手感想文も届きましたので掲載します。

【選手感想文】

（ノートルダム清心高校山岳部 選手一同）

私たちにとって今回の大会は、優勝はしたものの反省点ばかりで素直に喜ぶことのできない結果だった。まず、全体的に、予選の結果から来た緩みなのか、チームとして緊張感が無く、油断していたのが一番の問題点だったと思う。

一日目、今年ずっと苦戦してきた筆記試験。今回こそはと思ったが、自然観察以外、本人の思い込みによる失点が相次ぎ、試験後、何度も何度も失点を数えたが、これ以上の失点は許されない状況だった。この時点で少し諦めてしまっていた。

そして大会前必死に練習した設営。スピード重視で大会規定もろくに読まず挑んだ結果が 0.9 点の失点だった。それに加え、想定外の地面の硬さと筆記試験のショックで「来年の県総体で頑張ろう」と言ってはいけないネガティブな発言をしてしまったのだ。

一日目の夜、返却された審査物の思いもよらない点数に対する驚きとふがいなさで、なかなか立ち直ることができなかった。この日の夜、その悔しさを紛らわすために皆で色々なゲームをして遊んだのも、今となっては良い思い出だ。

二日目の登山行動。今までの経験から登山行動中に喧嘩が勃発し、チーム内の雰囲気が悪くなるのは分かっていたので、今回、役割や責任の分担をはっきりさせることで、それを未然に防ぐことができたのは一番の成長だと思う。前回の反省も活かさず、チーム内が険悪な雰囲気になっていれば、きっと優勝は無理だったと思う。

こうして私たちは何とか中国大会優勝を成し遂げることができた。2位と0.3点差だったことを考えると、今でも冷や冷やする。私たちの来年の目標は「全国制覇」だ。失敗から大いに学び、大いに成長していきたい。

最後になりましたが、コロナ禍にもかかわらず、大会を開催してくださった大会関係者の皆様、保護者の方々、先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。また、共に戦った選手の皆さん、ありがとうございました。機会があったら、いつか一緒に山に登りましょう。

6. 岳連短信

1. 寄贈御礼

三原山の会『筆影』No.501（12月号）

広島山岳会『山嶺』第876号（R3.11月）

広島やまびこ会『やまびこ』783

広島山稜会『峠通信』第750号（12月）

『中信高校山岳部かわらばん』700（12/5）

2. 12~1月の行事予定

1/9(日) 新年互礼登山(宮島)

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽に寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。隨時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい